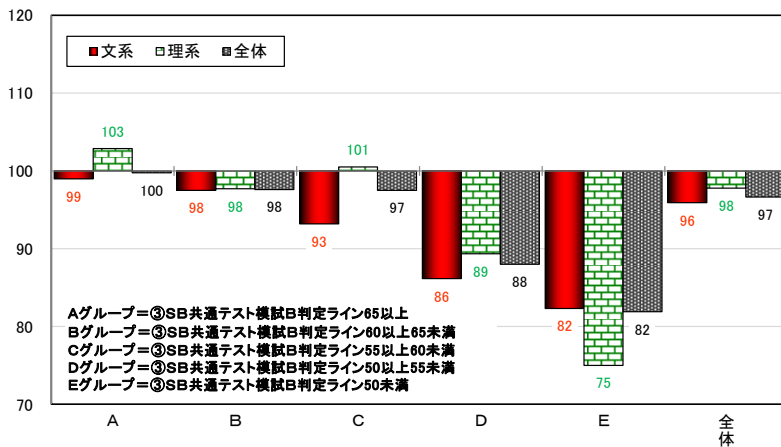


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎模試合格判定ライングループ別志願状況・合格状況

□志願者数は文理とも E グループの減少率が最大、一般選抜離れの傾向



左のグラフは、私立大455大学の一般選抜の志願者数集計において、2022年度第3回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ~下位Eグループ)に分類し、各グループの志願者数合計の前年度対比指数を示したものです。

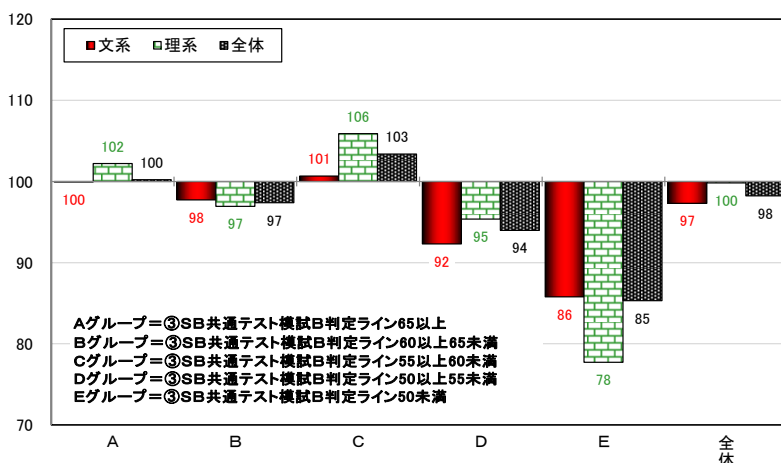
文理別では、文系(96)はやや減少、理系(98)は微減ですが、特に文理共にB判定

ラインが低いDグループの減少、Eグループの大幅減少が目立っています。

グループ別では、文系では全グループが減少で、Aグループ(99)は微減、Bグループ(98)、Cグループ(93)はやや減少、Dグループ(86)は減少、Eグループ(82)は大幅減少とB判定ラインが低いグループほど減少率が大きくなっています。これは、B判定ラインが低くなるにつれて、一般選抜の入試全体に占める割合が小さくなっていることを示しています。ところで、学校推薦型選抜や総合型選抜は11月から12月に選抜が行われることから、「年内入試」という言い方が広まっていますが、文系のDグループ・Eグループの大学ではまさしく「年内入試」が主流で、その流れがCグループの大学にも波及しつつあると言えます。

一方で、理系ではAグループ(103)、Bグループ(98)、Cグループ(101)はいずれも増減率が小さく、一般選抜の志願者数が維持されています。理系は文系に比べると入学定員も少なく、数学や理科などについて専門教育に必要な知識や技能が身に付いているかを確認する必要があることから、一般選抜が機能していることがわかります。しかしながら、Dグループ(89)では文理の差が小さく、文系同様に「年内入試」主体の選抜となっていることがわかります。また、Eグループ(75)は大幅減少していますが、このグループに分類される理系の募集単位が少ないことも影響しており、参考としてご覧ください。

□合格者数は全体では文系がやや減少、理系は前年度並



左のグラフは、私立大419大学の一般選抜の合格者数集計において、2022年度第3回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ~下位Eグループ)に分類し、各グループの合格者数合計の前年度対比指数を示したものです。

文系は、Aグループ(100)は前年度並、Bグループ(98)は微減、Cグループ(101)

は微増、Dグループ(92)は減少、Eグループ(86)では15%近い減少で減少率が目立っています。「合格者指数-志願者指数」の値を見ると、Bグループ〔±0〕を除いた4グループはプラスで、競争緩和です。

2023年度入試状況分析【私立大】

理系は、Aグループ(102)は微増、Bグループ(97)はやや減少、Cグループ(106)はやや増加、Dグループ(95)はやや減少です。Cグループの増加は国公立大併願者を含めてより難易度の高い大学志願者からの併願校として狙われたことに加えて、2023年度入試で私立大で最も志願者数を増加させた千葉工業大の多くの募集単位が含まれていることが影響しています。なお、Eグループ(78)は大幅減少していますが、このグループに分類される理系の募集単位が少ないことも影響しており、参考としてご覧ください。「合格者指数－志願者指数」の値を見ると、Aグループ[-1]、Bグループ[-1]を除いてプラスで競争緩和です。また、A・Bグループは、前年度の共通テスト難化の影響から不安を持つ国公立大志願者からの併願増加がうかがえます。